

金融商品の選択

1. 金融商品の選択基準

- 金融商品選択の際に最も重視していることは、「元本保証の有無」が引続き最も多く、次いで、「少額でも預け入れや引き出しが自由にできるから」、「取扱金融機関が信用できて安心だから」の順となっている[図表7]。
- これを「安全性」、「流動性」、「収益性」の3基準^(注)に分けてみると、「流動性」がやや減少しているが、引続き「安全性」を重視するとの回答が過半を占めている。

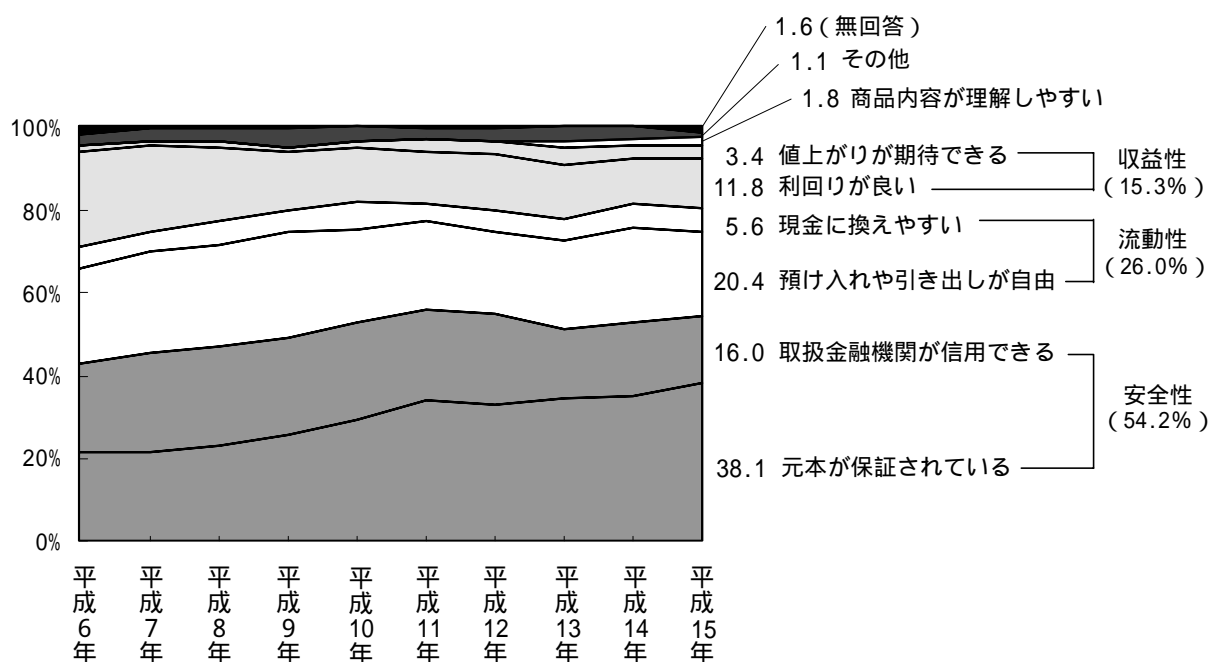
(注)ここでは、「安全性」、「流動性」、「収益性」に関わる項目をそれぞれ下記のように分類。

安全性：「元本が保証されているから」及び「取扱金融機関が信用できて安心だから」

流動性：「少額でも預け入れや引き出しが自由にできるから」及び「現金に換えやすいから」

収益性：「利回りが良いから」及び「将来の値上がりが期待できるから」

(図表7) 金融商品を選択する際に重視すること<問5>

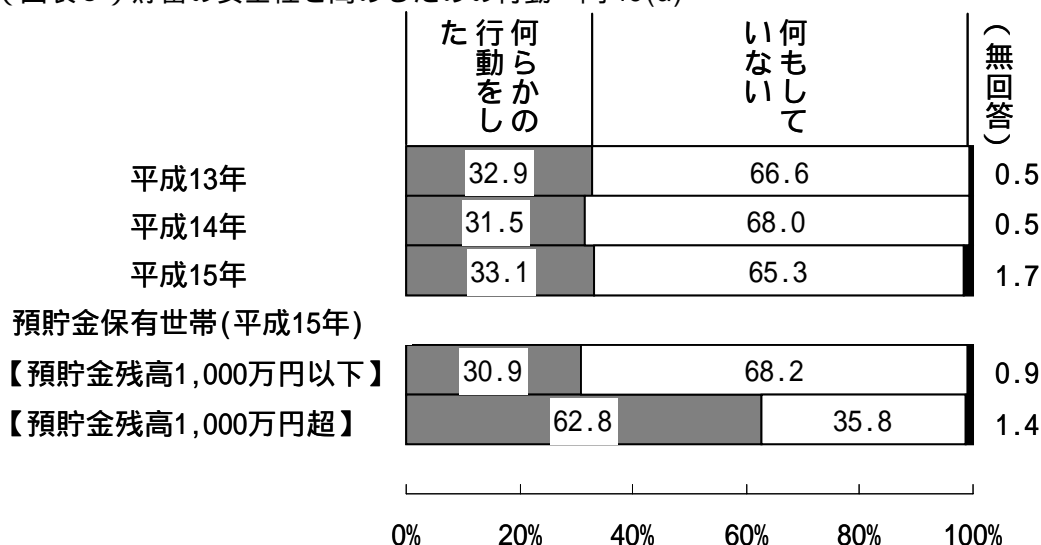


2. 金融商品の選択に関する行動

(1) 貯蓄を安全にするためにとった行動と今後の意向

- 貯蓄の安全性を高めるため、3割強の世帯が「何らかの行動をした」と回答した[図表8]。
- 預貯金（郵便貯金を除く）残高が1千万円超の世帯に限ってみると、「何らかの行動をした」と回答した世帯は6割強に達している。その具体的行動としては、「1金融機関への預金金額が1千万円を超えないように、預け入れ先を複数に分散した」が6割強、「信用度の高い金融機関に預け替えた」が4割弱となったほか、「1千万円を超える部分を普通預金などへ預け替えた」が2割弱、「1千万円を超える部分で、他の資産（国債や金など）を購入した」が1割弱となった[図表8]。

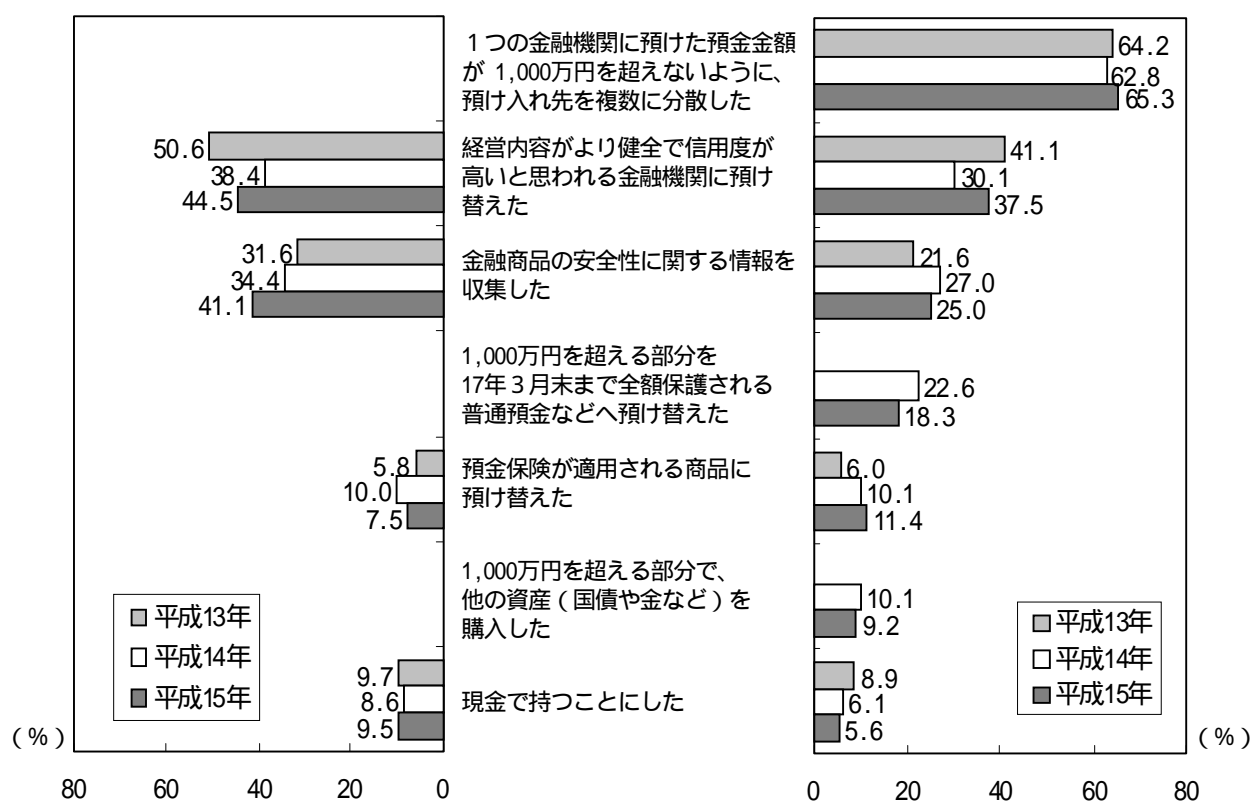
(図表8) 貯蓄の安全性を高めるための行動<問15(a)>



(具体的な行動の内容、複数回答、<何らかの行動をした世帯 = 100% >)

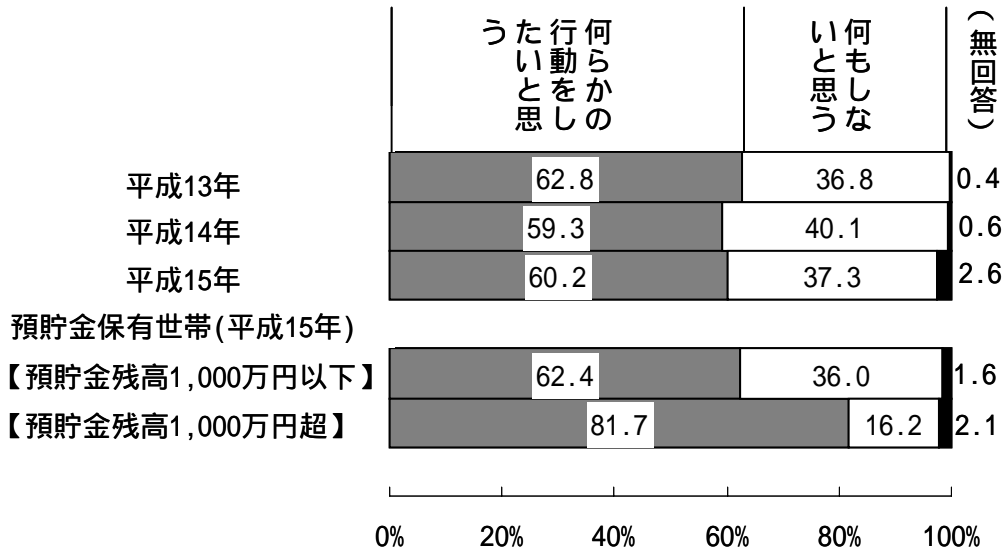
【預貯金残高1,000万円以下の世帯】

【預貯金残高1,000万円超の世帯】

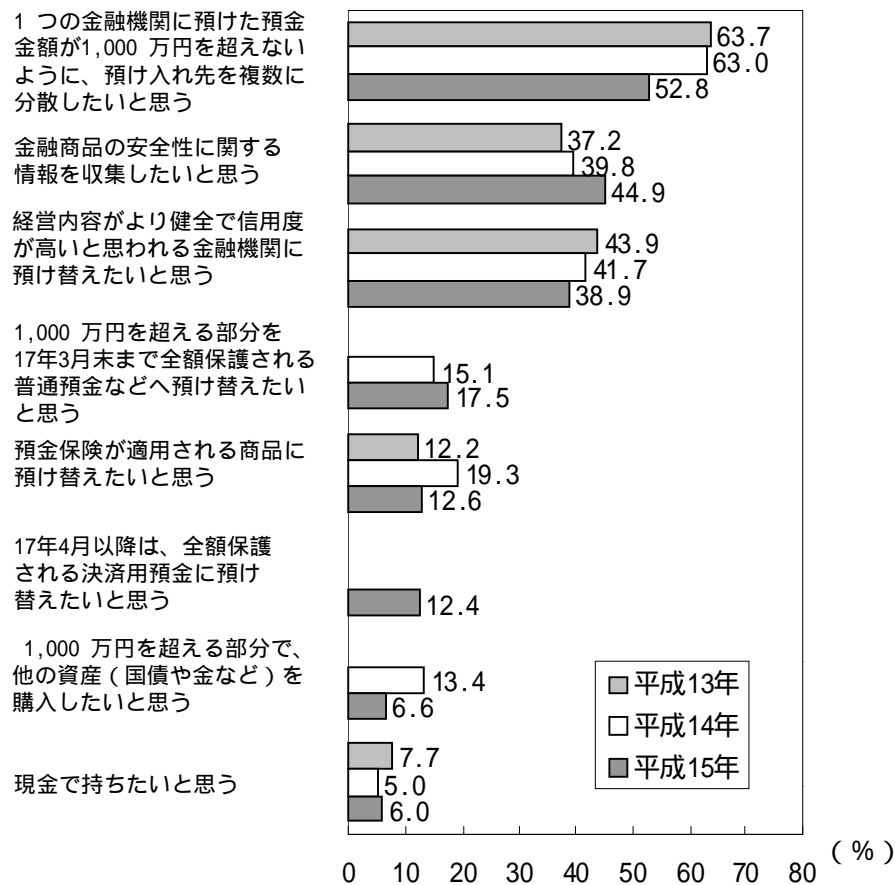


- ・ 今後については、約6割の世帯が「何らかの行動をしたいと思う」と回答しており、これを預貯金（同）残高1千万円超の世帯に限ってみると、その構成比は8割強となった[図表9]。

(図表9) 今後の意向 < 問 15(b) >



(具体的な行動の内容、複数回答(預貯金残高1,000万円超の世帯))
< 何らかの行動をしたいと思う世帯 = 100% >



(2) 各種金融商品の選択に関する自己責任の受け止め方

- 金融商品の選択に関する自己責任の受け止め方をみると、「預貯金（外貨預金は除く）」や「保険」については、5割弱の世帯が「自己責任と言われても困る」と回答しており、その構成比は前年比増加した。また、「株式」、「外貨預金」、「デリバティブ」といった商品についても、1割前後が「自己責任と言われても困る」と回答した[図表10]。
- このうち、「預貯金（外貨預金は除く）」に関し、預貯金（郵便貯金を除く）残高1千万円超の世帯についてみると、なお4割が「自己責任と言われても困る」と回答し、「自己責任を持つのは当然である」との回答（4割弱）を上回っている。

(図表10) 自己責任の受け止め方<問16>

